

ケニアの首都ナイロビ最大のキベラ・スラム（人口約50万人）で、国際医療援助団体、AMDA（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）が、洋服の職業訓練や事業資金の貸し付けなどの支援を続けている。18～30歳の女性が対象で、エイズ教育や汚泥清掃などのボランティアも実施。アフリカでの非政府組織（NGO）の活動は、難民の大量発生や大規模な飢饉での緊急援助が目立ちがちだが、地道な支援として関心を集めている。（9面に特集）

昨年1月からスラム内の事務所でミシンの使い方や

## □ケニアのスラム□

洗濯のつけ方などの授業を始めた。研修期間は3カ月で、既に約110人が卒業した。ストリートチルドレンを集めた学校の制服などをつくり、無償で提供している。卒業生には、5人1グループにして4万ケニア・シリング（約8万6000円）を貸し付け、洋服の仕事を支援。グループに事業計画を立てさせ、月々の返済も義務づけている。

一方、事務所では授業の合間に、「汚水をそのまま飲まない」などの衛生教育やエイズに関するセミナーも開いている。今年3月には、スラム内の川を清掃し、1日でごみ9トンを集めた。

AMDAナイロビ事務所長の林信秀さん(30)は「スラム内で卒業生が洋服店を始めたが、返済も順調でうまくいっている」と話している。  
【香取泰行】

# 自立の

# ミシン

## 実を結ぶAMDAの支援



AMDAの支援で洋服を学ぶスラムの女性ら—ケニアのナイロビで、尾籠章裕写す